

福井の戦国 歴史秘話

<第5号>

平成29年6月30日発行

徳川家康を支えた三河三奉行、鬼の作左衛門と福井の関わり

天下人、徳川家康。その家臣団の中でも、NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」に登場する井伊直政や同「真田丸」の本多忠勝など「徳川四天王」がよく知られていますが、家康の三河時代を支えたのが、「三河（岡崎）三奉行」です。今回は、三奉行の一人、鬼作左（おにさくざ）の異名を持つ本多重次（しげつぐ）と福井の関わりを取り上げます。



本多重次

本多重次（通称、作左衛門）は、徳川家に家康の祖父の代から歴仕し、永禄8（1565）年、高力清長、天野康景とともに三河三奉行に取り立てられました。重次は、物事に妥協しない厳しい性格で、“仏の高力、鬼作左、どっちでもない天野”と評されたといひます（『岩淵夜話』）。また、四天王の一人、本多忠勝と重次は、忠勝の5代前の本多定助を祖とし2つの家系に別れた一族であることでも知られています。

本多重次と福井の関わり。その一つは、家康の二男で福井藩初代藩主、結城秀康との関係でした。家康の正室に仕える奥女中が家康の子どもを身籠った際、正室の目を恐れた家康の命を受け、その子（於義丸。後の結城秀康）を引き取って育てたのが重次でした。重次は、秀康を徳川家随一の武将とするため、文武両面で懇切に指導しました。（二人の関係を象徴する小像が福井市立郷土歴史博物館に寄託されています。重次が幼少の秀康を抱えた姿で、松平春嶽が、秀康が葬られた考蹟寺に安置されていた木像を模して鑄造したといわれています。）

慶長5（1600）年、秀康は関ヶ原の戦いで活躍。その功績により、福井に68万石を与えられます。秀康の福井入りに伴い、付家老として府中城主（福井県越前市）となったのは、重次の甥、本多富正でした。

もう一つの福井との関わり。それは、丸岡藩初代藩主、本多成重との関係です。秀康の死後、越前騒動で家老、今村盛次（丸岡城主）が失脚。これを受け、慶長18（1613）年、付家老として丸岡城（福井県坂井市）に入城したのが、重次の息子、成重でした。成重の入城には、こんなエピソードが残っています。本多富正は、「越前は大国にして肝要の地。誰かもう一人家臣を遣わしてほしい」旨を願い、従兄弟で同い年の成重を希望したといひます（『富正公御代々覚書』）。その後、成重と富正、2つの本多家は藩政を主導。そして、寛永元（1624）年、成重は、大名として認められ、丸岡藩が成立しました。

現在、丸岡城の一角には、「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」の名文の碑が建てられています。これは、天正3（1575）年、本多重次が長篠の戦いの戦場から妻に送った手紙でした。合戦を控えての便りは、後に憂いを残さぬ武将のたしなみで、手紙に登場する「お仙」は、成重（幼名、仙千代）です。そこには、家を守り、家族を愛し、忠義を尽くす思いが、簡潔に込められています。

この名文は、坂井市が全国から一行詩を募集する「日本で一番短い手紙 一筆啓上賞」創設の契機となりました。平成5年から続く「一筆啓上賞」。重次と福井の関わりは、今も続いています。

<参考資料>本多成重と丸岡藩（みくに龍翔館）

～戦国ふくい歴史紀行～ [丸岡城(国指定重要文化財)]

・本多成重の居城、丸岡城。天正4年(1576)に柴田勝家の甥、勝豊によって築かれました。2重3層の天守閣は、現存する天守閣としては、日本最古のものです。日本さくら名所100選にも認定されており、春には、満開の桜が霞ヶ城の別名にふさわしく、古城に美しさをそえます。

【住所】坂井市丸岡町霞町1-59（JR芦原温泉駅から本丸岡または永平寺行きバス「城入口」下車徒歩2分）



丸岡城天守閣

★お知らせ 企画展「結城秀康・松平忠直と重臣多賀谷氏」を開催中！

・平成29年7月18日(火)まで、福井市立郷土歴史博物館で開催(9:00～19:00) ※7/10は休館

・福井藩初代藩主、結城秀康、2代藩主松平忠直、そして両方に仕えた重臣多賀谷氏の事績等をご紹介します。

【住所】福井県福井市宝永3丁目12-1 【問い合わせ先】0776-21-0489